大阪地方検察庁
検察事務官（DFセンター）

30代　男性／平成14年度 採用

モットー　仕事も 家庭も 大事に ！

Q.今はどんなお仕事をしていますか？

私は今，総務部のDFセンターに所属しています。「DFセンター？そもそも，DFって何？」と思われた方もいるかと思います。**「DF」とは，デジタル・フォレンジックの略称**であり，犯罪捜査において重要な証拠となるデータが保存されている可能性が高いパソコンやスマートフォン，USBメモリなどといったデジタル機器について，**データを適切に収集・保全・解析するための手法や技術のことを言います**。DFセンターでは，DFに関する相談や依頼を受けたり，DF担当者等に対して研修を行ったり，様々なDFに関する機材を管理する仕事をしています。大阪地検だけでなく，西日本にある検察庁の捜査・公判を担当する検察官や事務官からDFに関する依頼を受けた場合には，持ち込まれたデジタル機器から適切にデータを抽出（保全）した上，その抽出したデータを様々なソフトを使用して解析し，捜査報告書を作成しています。研修は，各庁のDF担当者等の職員に対し，DFの一連の流れである収集・保全・解析について座学や実技を交えて研修を行っており，一人でも多くの職員にDFに関する知識や技術を習得させ，捜査・公判に役立ててもらっています。

また，DFセンターには，保全や解析を行うためのソフトや機器がたくさんあり，管理するのは大変ですが，故障等しないように大切に取り扱い適正な管理を行っています。

最後に，DFの収集に当たる仕事として，いわゆる「家宅捜索」の際に，現場に我々も同行し，デジタル機器の押収を行うというものがあります。デジタル機器には，犯罪立証上，重要な証拠となるデータが保存されている可能性が高く，専門的な知識や技術を持っているDFセンター職員として現場に同行することが多くなってきており，DFセンターに求められている役割をひしひしと感じる毎日です。

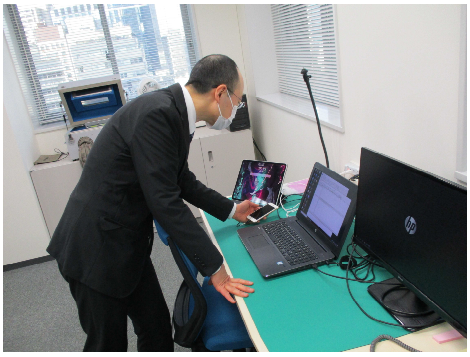
Q.やりがいや達成感があった経験を教えてください。

検察官から解析の依頼を受けてデータ解析を行った結果，事件捜査の進展に繋がるようなデータを見付けることができ，依頼者の検察官に喜んでもらえたときにはとてもやりがいを感じます。DF業務は，検察庁の中でも特殊な仕事なので，自分の仕事次第でやりがいを感じられることはたくさんあります。

Q.検察事務官になろうと思ったきっかけを教えてください。

もともとは，大学の機械や電気系の学科に進学したいと思っていたのですが，恥ずかしい話，センター試験等の結果が思うようにいかず，浪人してまで大学に行くのかと考えたときに，それならばなるべく早く就職して親に迷惑をかけないようにしたいと思い，大阪にある公務員合格率の高い専門学校に通うことに決めました。そして，専門学校２年目のとき，国家公務員試験の筆記試験に合格し，いくつかの官庁を訪問した中に大阪地検がありました。当時は，検察庁でどのような仕事をしているのか，正直言ってよく分かっていませんでした。それでも，官庁訪問で先輩たちから話を聞き，検察庁の仕事を知るにつれ，他の官庁よりも興味が湧くようになりました。そのときに一番興味を持ったのは，証拠品担当の仕事でした。事件の証拠品を管理する仕事に就きたいと思ったことは，今でもはっきりと覚えています。ですので，最初から「検察事務官になりたい！」と思っていたわけではなく，官庁訪問で興味を持ったのがきっかけでした。

Q.検察庁でDFの仕事をやりませんか。



今の時代，数多くのデジタル機器が社会や家庭に普及し，検察庁で捜査や公判を行う際にも，DFの知識や技術が必要となる機会が増加してきており，検察庁におけるDFの役割は，どんどん重要になってきています。そのため，検察庁でDFに携わっている人間としては，少しでもDFに興味を持ってくださる方が検察庁に入ってきてくれることを望んでいます。検察事務官になって，**押収したスマートフォンやパソコンなどから，事件の解決に結びつく重要な証拠を見付け出し**，客観的な側面から検察官をサポートするDFの仕事をやってみませんか？

いつか，皆さんと一緒にDFの仕事ができることを楽しみにしています。